キャラクター名	プレイヤー名
ビオカーダ	

種族	アビスボーン	**種族特徴**	アビスアイ、アビスカース付与(乗り物酔いの)
生まれ	密偵	**性別**	男
		年齢	10歳
冒険者Lv	3	**経歴**	魔物を倒したことがある
経験点	80		家族に探されている
			裕福な家に生まれた

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	11	**器用度**	4	1		16	2
		敏捷度	9	1		21	3
体	7	**筋力**	12			19 + 1	3
		生命力	8	2		17	2
心	9	**知力**	7			16	2
		精神力	3			12	2

技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	3		
スカウト	2		
エンハンサー	2		
デーモンルーラー	1		

技能	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	3	5	6	6
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	チェインメイル		18	-1	6
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	ファイター	合計値		5	6

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魔槍 プロドシア 血泉 射程術者 対象全エリア(30m)すべて 時間一瞬 コストとしてHPに5ダメージを受けることで、呪い属性の確定ダメージ3点を与える。その後、ダメージを与えたキャラクターの数×1点HPを回復する。この効果は連続手番には使用できない。	2H	20	1	2d+ 7	10	8	35										
				2d+													
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)
形見のロケット	○□□○□□
冒険者セット	○□□○□□
ヒーリングポーション	○□□○□□
救命草x6	○□□○□□
魔香草x3	○□□○□□
魔晶石(3)x5	○□□○□□

スカウト用ツール	○□□○□□
アウェイクポーション	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

所持金	預金・借金
340 G	G

戦闘特技			
武器習熟A/スピア	1-281p		p
全力攻撃	1-286p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
魔神語	○	
妖精語	○	

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	21 m	63 m

回避	防護点	HP
2d+ 5	6	26

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/×	2d+ 5

生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 5	2d+ 5	15

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
召異魔法	1	3			

練技/呪歌/騎芸/賦術	
マッスルベアー	
キャッツアイ	

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	
背中	
右手 筋力の指輪	
腰	
足	
その他	

装備品	説明
左手	

その他メモ

冒険の理由:家族を全て失ったので
ノーブルレベル3(祭礼用の槍術は習っていた)

幼い頃僕は、貴族の養子に取られた、らしい。もう覚えていない。
親の顔も名前も知らないが、自分は何不自由ない生活を送っていた、ように思われた。いや、今の今まで疑いなく思っていた。
何気ない悪戯心で入った親の部屋にあった書類に、全て書いてあった。僕の産みの親は、もう死んだ。殺されたんだ。今の「親」に。
僕は居てもたってもいられなくなって、すぐに家を飛び出した。その書類をしまって素知らぬ顔で幸せな子として生きるのは、その時の頭では考えられなかった。
運命が僕を路頭に投げ出す。僕は馬も持っていないのに、「親」に見つからないように生きていかなければならなくなった。
死ぬ事も考えた。生い立ちが僕を肯定してくれているとは思えなかったように、僕は自分の命を肯定できなかった。
だが、それだと無念の中死んだであろう親に示しがつかない。こんな状況でも残された貴族としての教示と矜持だけが、僕をこの世につなぎ

自動失敗チェック
□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟